008 | オービス社のフライボックス。「ムダなスペースデザイン。でも遊び心を感じる」（平）。「趣味を楽しむ余裕がムダの裏側にある気がする」（中）

004 | 細かいコンパのドライ用ボックス。「薄いプラなのに大げさな金具。そのアンバランスさがいい」（平）

ボナンドー Bonnand

プラスティック製フライボックスを古くからリリースしているフランスの老舗。カラーリングのセンスがさすがフランス、という声も。

ハコ好きなもので…

名品、珍品、意味不明品。古今東西の個性派フライボックス大集合

コメント：（中）中村昌平 、（平）平野貴士

※くわしくは 18 ページからの本文を

005 | デュイット社の各種のプラスティック製ボックスは今でも現行品で売っている。これは2000 円前後。（平）

001 | ボナンドーはカラフルなプラスティック使いに独特の魅力がある。とくに「緑」の味わいが深い。（中）

006 | River Rat ロゴ入りのデュイット OEM 品。「もともとは下敷きにマグネットが貼ってあったけど、剥がれました。でも捨てられなくて」（平）

002 | フタを二重にする意味は不明。タッパーみたいだがれっきとしたフライボックス。「フライより煮豆を入れて冷蔵庫へ入れたら似合いそう」（中）

009 | オービス社のボックス。同型品だが左の方が古く、左側だけ変色（黄変）している。「あえて黄変しているのを選んで買った。質感が違う」（平）

プラスティックコンパートメント

オールプラで、中がコンパートメント（間仕切り）のボックス。今はピルケースとしてよく見かけるが、昔はコンパのプラ製ボックス自体が希少だった。

003 | 半透明なブルーのフタに、黄色ベース。さらに黒の磁石。日本のメーカーでは出会えない軽快なカラーセンス。「このちゃちさがいい」（平）

010 | ハーディー社 Neroda シリーズの復刻品。「コンパートメントのフタがそれぞれスライド式になっている。小さいフライを入れるのにいい」（中）

007 | ミルストリーム社現行品。ベルトに差し込む。「これ一つで身軽に釣りに行ってみたい。すぐに壊れそうだし、転んで中身をばらまきそう」（平）

デュイット Dewitt

自社ブランドと共に、各メーカーの OEM でもたくさんのプラスティック製フライボックスを作っている。ポピュラーなフライボックス。現存メーカー。